

自然と酪農の調和を目指す 緑の回廊事業

— 生物多様性保全機能 —

はまなか緑の回廊推進委員会



植樹活動

野生生物が生息している森、川、湖沼、湿地・湿原などが孤立していき、棲みにくい環境となっていることから、平成13年より町内の酪農家、地元住民の有志が「浜中緑の回廊」として活動を開始し、平成19年に地元関係機関を含めた「はまなか緑の回廊推進委員会」を設立。それぞれの生息環境を森で結び、多様な生き物が生息できる環境の回復・保全に取り組んでいる。



はまなかちょう
北海道浜中町



地元ボランティアによる魚道設置

〔生物多様性の保全〕

牧草栽培に適さない原野・傾斜地・河畔の湿地に植樹を行い、分断されている生息環境を森で繋げる緑の回廊事業を実施しており、また、魚の遡上に障害となる堰に、専門家と連携して地元ボランティアによる手作りの魚道を設置している。

〔景観の保全、水質浄化〕

緑の回廊登録地（約2,000ha）への植樹活動により、森の再生・湿原の保全が進み、景観の保全や水質浄化へと繋がっている。また、環境調査等による自然環境把握だけでなく、情報を広く活用するため、植生図の作成や自然環境情報のGIS化を実施している。

5つの緑の回廊憲章



自然と調和した酪農経営を

多様な生きものが共存できる環境を維持・復元・創出することで継続的に高い安全性を持った高品質な牛乳の生産基地を目指す。



さまざまな生きものに触れられる環境を

「子供たち」が、「大人たち」が、「家族」が自然に親しみ、自然の恵みを継続的に謳歌できる環境づくり。



酪農が培ってきた文化や知恵を子供たちへ

酪農で培ってきた文化や知恵を伝え、それを継承・発展できる環境づくり。



酪農村に豊かな森ときれいな水を

品質の高い農産物の生産や豊かな生活が出来る、安全で安定した農村環境。



潤いのある美しい酪農景観を

自然と調和した自分たちに潤いのある酪農経営環境を整備していくことで、自慢できる酪農地帯の景観を作りあげる。



自然環境・地域との調和のとれた酪農の未来像
浜中町農協の「エコ牛乳」